

セミナー通信

—教育実習総合センター—



あけましておめでとうございませう。平成27年の夜明けです。今年も教職大学院の皆さんの研究と実践を全力で支援します。

昨年12月に行われた生徒指導実践開発コースの「実地研究Ⅰ事後発表会」と「教職アドバンスト実習成果発表会」を紹介いたします。

☆生徒指導コース

発表を行ったのは同コースの森本祐司さん、芦田新さん、大西真由さん、大學習子さん、山本泰馬さん、宮部周さんの6名でした。会場には実習校のメンターの先生方も出席されていました。内容は定時制高等学校、小学校、中学校において自身の研究課題について、実習校の実践を観察指導を通して学んだ報告でした。これにより各自が2年次での研究を更に深める基盤を固める成果を得たようでした。



今年も理論と実践の融合に成果を!

☆アドバンスト実習

発表を行ったのは岡浩次郎さん、佐藤裕美子さん、吉田成利さん、野間千夏さん、小菅貴紀さんの5名でした。当日は文部科学省の



平係長や本学学長はじめ事業実施に関係された多くの方々の出席があり、盛会となりました。

内容はいずれも修士課程の1年次において3週間の実習を行うという、これまでにない試みの報告でした。学校現場の実践という貴重な体験が、それぞれの研究の進展に大きなプラスになったということが各自の自己診断チャートにもとづいて発表され、大きな成果をおさめました。

両コースの人たち、お疲れさまでした。皆さんの今後の教育実践学への取り組みに期待します。

続 教師力向上講座

P3生のための外部講師による「授業力を磨こう」実践サポート続編を引き続き紙上公開します。

第3回 10月27日(月)

小野あい子先生(西宮市立樋ノ口小)「つながり合う外国語活動」

お話で特に強調されたことは、
・多文化共生Ⅱ文化の違いを受け止める一方で、日本文化に対する理解も深めることが大事である。
・コミュニケーションⅡ人とのかわり合い、伝え合い、つながり合うということをめざすべきである。
・英語を教え込まないで、たっぷり聞かせること。
・チャンツ、ゲームは子どもが英語に親しむ手段としてきわめて有効なので大いに使おう。
・ほめて、リラクセスさせ、ゆっく



り大きな声で発音させよう。

P3生の感想

・たどたどしくてもコミュニケーションを取ろうとする姿勢が大切と聞いて少し気持ちが楽になりました。

・ゲームが楽しく、この気持ち子ども達に感じさせていくことで、活動の目標にある「親しみ」をもたせることにつながると感じました。

・健康観察を英語で行うという例は、ぜひ自分も取り入れてみたいと思いました。

☆後半の実践編に入ると俄然活気が出て、参加者も夢中で取り組みながら授業中で使えるゲームや指導法を体感していました。

第4回 11月10日(月)

伊東幸治先生(明石市立貴崎小)

「わかりやすく教える算数授業」

お話で特に強調されたことは、
・算数の簡潔さや利便さなどを体験させることで「算数の好きな子どもを育てる。
・教え込みするのではなく、児童の疑問から授業を展開するのがよい。
・説明には、いろいろな教具や手段を使って効果的に理解させていくこと。

P3生の感想

・分数同士のわり算の指導法をさまざまな方法で学べたことがよかった。子どもが算数を好きになるような教材研究を進めた

いです。
・学校で指導内容を統一することは、とても大事だと思いました。
・算数の指導とノート指導について、さらに詳しく聞きたかった。

☆とてもパワフルな実践講座でした。多彩な内容で実践例も豊富でした。

教採へ向け、この時期何をしていたか

—我が受験対策を紹介—

- 1月～ 過去問を解く。1日2回分くらい。苦手分野、得意分野の割り出しをするため。
 - 3月 筆記以外に有志と面接練習を開始。
 - 4月 苦手分野を勉強。1日2～3時間程度
 - 5月 教職教養(教育法規等)を参考書等で勉強。
 - ～ 3月同様、週1日仲間と空き時間を利用して集団面接、集団討議をより積極的に実施する。
 - ・教育実習総合センターやキャリアセンターで指導を受ける。アドバイスを有効に活用する。
- 【習慣化するために】
- ・1日でなく1週間でやる分量を決める。
 - ・寝る前に1日の振り返りを行う。
 - ・できれば人目のあるところで勉強する。

教育重点キーワードについて

- ①ESD(「持続可能な開発のための教育」)
地球の資源にかぎりがあることを知り、環境との調和をはかりながら経済活動を続けていくための人材を育てるのを目的とする。2002年南アフリカで開かれた「環境開発サミット」で日本が提唱し同年の国連総会で全会一致で採択された。地球規模での課題を解決する力を将来身につけるため、物事の本質を知り未来を予測して計画を立てるなど、問題解決に必要な能力を養うことを目標とする。
- ②アクティブ・ラーニング(課題解決型授業)
次期学習指導要領の主役の役割を果たすともいわれる学習方法。「能動的学習」と訳されている。文部科学省においては「課題の発見と解決に向け、主体的・協働的に学ぶ学習」と説明されている。子どもがペア学習・グループ学習などを通じ自分の学びを深め、将来その学習成果を活用することを目標とする学習のやり方。

小学校教員養成特別コース 実地研究

P2

「実地研究」これからもがんばります。



伊藤友希さん



井藤由佳さん



高木富也さん



坂本真理子さん



清友祥太さん



川端莉世さん



平山春樹さん



田淵 陽さん



榎 芳徳さん



有馬佑輔さん



橘高晃大さん



松岡太嗣さん



毛笠祐々さん



今井 雅さん



重岡知宏さん



江口奈緒さん

連携協力校の皆様お世話になっております。